

編集後記

今回の企画は、論点がいくつかあって、さまざまな登壇者が話をする中で、その論点が徐々に明確になっていったと思います。(1)ここで問題となる行動主義はどの行動主義のことか、(2)その問題となる行動主義は現在の心理学とどのような関係があるのか、(3)もしそこに問題があるならどのような改善の方向があるのか、(4)そしてそれは可能なのか論じられました。1から3については、渡邊先生、サトウ先生のご発表の中に、4については、戸田山先生の指定討論の中に見ることができると思います。登壇者が企画者の趣旨をくみ取って議論を構成してくださったので、レベルの高い議論ができたと思っています。しかし、企画者の焦点化が不十分だったこともあり、一つ一つの議論をもうすこし丁寧に見ていってもよかったと今は思っています。本企画は、前述のような論点を洗い出すという意味で非常に有効だったのであり、また機会があれば、ぜひ第2回としてもう少し詰めた議論をしたいと考えています。

こういう企画は、ハウツーもの、流行りものの企画と比べてなかなか関心を持ってくださる方が少ないのですが、当日は予想以上の多くの方にご来場いただきました。本冊子が、一つの足がかりとなって、次の議論につながるといいなあと思っています。

最後になりましたが、お忙しい中、本企画に、ご登壇いただいた先生方には感謝申し上げます。また、本号の編集に際し、名古屋大学大学院教育学研究科の吉田琢哉さんにご助力いただきました。ありがとうございました。

なお、この「てんむすフォーラム」は、本号が最終号になる見込みです。これまで続けることができたのも、松本さんはもちろん、今尾さんや村上さん、河野さんといった理解者・協力者のおかげだと思っています。ありがとうございました。(荒川歩、2009年11月11日記)

まずは、渡邊先生・サトウ先生・戸田山先生による話題提供・指定討論は、今回の企画趣旨である心理学全体における行動主義について今一度考えるうえで、分かりやすく、とても参考になるものでした。

一方で、全体の質疑は、次々と新たな話題に展開していくので、議論のつかみどころが分からなかったのが正直なところでした。一つひとつの発言については、こんなことを考えているんだと興味深く感じました。私自身修正したり、意思疎通を図ったりしなければならぬことが多岐に渡ることは自覚できました。ただ、互いの距離を埋めることは可能、と信じられるほど私は若くも傲慢でもありません。今後も、距離が埋まらないはがゆさを抱えながら／やり過ごしながら、同じ空間にいて意見を言い合えたらいいなと思っています。

シンポジウム全体として、心理学全体が行動主義という軌範に則っているということの確認と批判的検討を主な目的としていたので、それに対していろいろな視点からご意見いただけたことは貴重でした。いただいたご意見への反論も含めて、心理学全体における自分の研究の位置づけに生かしていきたいと思います。

話変わって、今号で「てんむすフォーラム」は最終号になります。研究会の主宰者である私と荒川さんが取り上げたいテーマはひとまず出尽くしたというのが主な理由です。研究会の主催とフォーラムの公刊は、私と荒川さんで行うため、自分たちのやりたいようにできる楽しさと同時に、なかなか骨が折れるところがありました。そのため、いい区切り時ではないかと思っています。フォーラムは今後も Web 上には残しておくつもりです。心理学について省察する材料になることを期待しています。

最後に、研究会に登壇いただいた先生方、フォーラムへ寄稿いただいた先生方、研究会の開催に協力いただいた先生方、そして荒川さんに感謝いたします。研究会とフォーラムは、名古屋という地理的条件と、私と荒川さんの状況が揃わなければ実現しませんでした。タイミングを逃さずやったおかげで、私自身、いろいろと考える貴重な機会となりました。今後の糧にしたいと思います。(松本光太郎、2009 年 11 月 10 日記)